

Pro Tools LE 7.4 on Mac

for Pro Tools LE Systems on Mac OS X 10.4 (" Tiger ") Only

この書類には、Digidesign が推奨するバージョンの Mac OS X が起動する Macintosh システム上で動作する、Pro Tools LE 7.4 に関するユーザー・ガイドの訂正事項、互換性情報、既知の問題点、エラー・コード等が記載されています。


新しいバージョンの Pro Tools をインストールする前に旧バージョンをアンインストールする

お使いのコンピュータに以前のバージョンの Pro Tools がインストールされている場合は、新しいバージョンの Pro Tools をインストールする前に旧バージョンをアンインストールする必要があります。

Pro Tools には、システムから Pro Tools を削除するための、専用アンインストーラが収められています。コンピュータから Pro Tools software を削除する場合は、この Pro Tools アンインストーラを使用します。このアプリケーションは、Pro Tools インストーラ・ディスクのルート・レベル、または Applications/Digidesign/Pro Tools/Uninstallers folder (Pro Tools のインストール後) に収められます。

Pro Tools をコンピュータから削除するには :

- 1 ProTools がインストールされたアカウントに管理者権限でログインしていることを確認します。

 Mac OS X の管理者権限について詳しくは、OS X のマニュアルをお読みください。

- 2 Pro Tools インストーラ・ディスクのルート・レベル、または /Applications/Digidesign/Pro Tools/Uninstallers folder (Pro Tools のインストール後) Uninstall Pro Tools アプリケーション・アイコンをダブルクリックします。
- 3 画面の指示に従って、アンインストール・プロセスを進めます。
- 4 実行したいアンインストールの形式を選択します :

セーフアンインストール Avid 製品との互換性を保つのに必要なプラグイン及びシステム・ファイルを残します。Avid アプリケーションを使用、または .CS リリースへアップデートする 場合はこの [セーフアンインストール] をご使用ください。

クリーンアンインストール 全ての Pro Tools ファイル、システム・ファイル、Digidesign プラグイン及び MIDI パッチ・ネームを削除します。アップグレード、またはクリーンなシステムからトラブルシューティングの準備をする場合はこの [クリーンアンインストール] をご使用ください。

- 5 [アンインストール] をクリックします。
- 6 管理者パスワードを入力して OK をクリックします。
- 7 インストーラ・ウィンドウを閉じて終了します。

互換性

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェア及びソフトウェア環境のみを互換 / 対応情報として提供しています。動作確認済みのコンピュータ、オペレーティング・システム、及びサードパーティー機器等に関する最新情報は、Digidesign の Web サイト (www.digidesign.com/jp) でご確認ください。

データベース・ファイルの互換性

Pro Tools 7.x は新しい Digidesign データベースのファイル形式を必要とします。Pro Tools のバージョン 6.x で作成されたデータベース・ファイルは、Pro Tools 7.x の初回起動時に削除されます。検索速度を上げるために、使用されているドライブを再インデックスしてください。DigiBase データベースのインデックスに関する詳細は、*Pro Tools リファレンス・ガイド*をご覧ください。

メモリーロケーションのコメント欄の文字数増加 (Item # 83593)

Pro Tools 7.3 以降では、メモリーロケーションのコメント欄で許容される文字数が増加しました。以前のバージョンの Pro Tools で Pro Tools 7.3 以降のセッションを開くと、258 文字を超えたテキストは、メモリーロケーションのコメント欄に表示されません。

MacBook Pro の右側の USB ポートにおける、Mbox 及び Mbox 2 またはその他の USB オーディオ機器の使用はサポートされていません (Item #74692)

MacBook Pro の USB アーキテクチャの問題のため、Digidesign, M-Audio またはサードパーティ製 USB オーディオ機器は、左側の USB ポート (電源アダプタ・ケーブル用ポートの隣) のみでサポートされています。オーディオ・インタラプトやサンプル落ちを引き起こす可能性があるため、上記の機器は右側のポートへ接続しないでください。ただし、iLok に関しては、右側ポートでの使用がサポートされています。

Intel Mac で iLok.com を使用する。 (Item #75951)

iLok.com Client Helper は、Intel Mac には未対応ですが、Safari などの Universal Binary としてプログラムされているウェブ・ブラウザで、iLok.com を利用できます。これには、Rosetta を使用してブラウザを起動させます。

Rosetta を使用してブラウザを起動するには :

- 1 Finder からウェブ・ブラウザのアプリケーション・アイコンをクリックします。
- 2 Finder のファイル・メニューから、「情報を見る」を選択します (または Command+I)。
- 3 「Rosetta を使用して開く」にチェックを入れます。
- 4 「情報を見る」ウィンドウを閉じます。

Pro Tools はスリープ・モードをサポートしません。

システム環境設定から省エネルギー設定を開き、スリープ設定タブ上、全てのスリープ関連機能を使用停止に設定します。“コンピュータがスリープするまでの静止している時間”を“しない”に設定してください。また Pro Tools の使用時は、手動でスリープモードへは移行しないでください。

2 台以上の同名の FireWire ボリュームをマウントした際の不具合 (Item #44223)

2 台以上の同名 FireWire ボリュームをマウントした状態で、同名の 2 台目のドライブへセッション・データを保存した後、このセッション・データのエイリアス・ファイルをデスクトップに作成し、Pro Tools 上からこのエイリアスを開こうとした際には Pro Tools アプリケーションがクラッシュします。複数の Firewire ドライブをマウントする場合には、必ず各ドライブに対して別々の名称を付けてください。

確認されている問題点

ここでは、Pro Tools LE 7.4 の使用時に生じる問題点とその回避方法について記載しています。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] 有効時は、CPU 使用限度に達する可能性がある (Item #83343)

CPU 使用限度を 85% 以上で [RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にした場合、コンピュータがオーバーロードしてレコーディングができなくなる場合があります。[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効に設定しているときは、CPU 使用限度を 80% 以下に設定してください。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を高く設定していると、画面のリドローがスローダウンする (Item #82915)

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を 85% 以上に設定すると、画面のリドローやバックグラウンド CPU タスクがスローになる可能性があります。RTAS Error Suppression を使用中にこれが起きた場合、プレイバックエンジン・ダイアログを開いて、CPU 使用限度を 5 ~ 10% 低くしてください。

再生中に、MacBook Pro のモニタの明るさを調整すると、エラーが起きる可能性があります。(Item #77237)

設計上の制限のため、Pro Tools のトランスポートが動作している間は、MacBook Pro モニタの明るさを調整しないでください。トランスポートが停止して、エラーが起こる可能性があります。Digidesign は、トランスポートの停止中にモニタ調整を行うことを推奨します。

高サンプルレート時の外部クロックはサポートされません (Item #79394, 80746, 80961, 76544)

Mbox 2Pro は最大 96 kHz のサンプルレートをサポートしていますが、外部クロック・ソース (S/PDIF 及び Word Clock) は、44.1 kHz 及び 48 kHz のサンプルレート・セッションだけでサポートされています。

サードパーティ製メディア・プレイヤーの中には、高サンプルレートでのオーディオ・ストリーミングをサポートしないものがあります (Item #75855)

Pro Tools セッションが 88.2 kHz 以上のサンプルレートで設定されている場合、オーディオをストリームしないメディア・プレイヤーがあります。これはメディア・プレイヤーや他の特定の CoreAudio アプリケーションの制限です。メディア・プレイヤーを使用可能にするには、これらのアプリケーションでもオーディオをストリーミングできるよう、48 kHz 以下のサンプルレートの新規セッションを作成します。

Windows Explorer または Mac Finder からはプレビューできません (Item #78473)

Pro Tools セッションを開いている時に、Mac Finder や Windows Explorer で Pro Tools に関連するオーディオ・ファイルをダブルクリックしても、オーディオ・プレビュー用 DigiBase 内のファイルは開きません。代わりに、現在のセッションのリージョン・リストへファイルがインポートされます。Pro Tools を使用してオーディオ・ファイルをプレビューする場合は、ワークスペース・ブラウザを開き、プレビューしたいオーディオ・ファイルへとナビゲートして、オーディオ・ファイル用の波形コラムにあるスピーカー型のアイコンをクリックしてください。

MP3 Codec は著作権保護されたファイルをエクスポートしない (Item #68985)

Pro Tools 7.3 以降における新しい MP3 Codec は、著作権保護されたファイル属性をエンコードする機能はありません。これはフラウンホーファーの新しい Codec 制限です。

ワークスペース・ブラウザ内で、特定ファイルのエラスティック分析計算 / クリアができない (Item #89026)

エラスティック・オーディオによりサポートされるファイル・フォーマットの拡張子が付いているにもかかわらず (.wav または .aif) Pro Tools のワークスペース・ブラウザがエラスティック分析の計算またはクリアを実行できない場合がごく稀にあります。ブラウザ・メニューの [エラスティック分析を計算] 及び [エラスティック分析をクリア] がグレイアウトします。このような場合、ファイルが実際に非サポートのフォーマットである可能性があります。ファイル・フォーマットを確認するために、ワークスペース・ブラウザのフォーマット欄をご覧ください。QuickTime などの WAV または AIFF 以外のファイル・フォーマットが示されている場合は、エラスティック分析の計算またはクリアを実行することはできません。とはいえ、これらの非サポート・ファイルはテンポに合わせて視聴することも、セッションへインポートすればエラスティック化することもできます。

Pro Tools 5.1 ~ 6.9 フォーマットでセッションを保存した際にリージョン・ループが欠落する (Items #90102, 90079)

5.1 ~ 6.9 でセッションを保存すると、「リージョン・ループが失われます」という旨のダイアログが表示されます。これを回避するためには、Pro Tools の下位バージョンでセッションを保存する前に、[リージョン] > [ループ解除] > [フラットに] を実行します。

エラスティック・オーディオをモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムで使用した際、オーディオ・ファイル内にドリフトが発生する (Item #96151)

エラスティック・オーディオを使用する際にオーディオ・リージョン内にドリフトが発生することがありますが、これはリージョンがモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムを使用してどの程度伸縮されるかに依存します。トランジェント情報を持つ素材にエラスティック・オーディオを使用し、かつドリフトを回避したい場合は、ポリフォニックまたはリズムミック・アルゴリズムをご使用ください。

異なるテンポの Reason ソングを開いた後、ティックベース・トラック上のオーディオ・リージョンが、正しいテンポで再生されない (Item #96710)

セッションと異なるテンポの Reason ソングを開くと、ティックベースのトラック上にあるオーディオ・トラックが正しいテンポで再生されないことがあります。コンダクターまたはマニュアル・テンポ入力経由でテンポ変更を施すと、リージョンが正しく再生されます。

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポマップを作成すると、レンダー・モード内のリージョン・グループがオフラインになる (Item #97993)

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポ・マップを作成すると、レンダー・モードのリージョン・グループがオフラインになることがあります。オフラインになったリージョンに編集を加え、エラスティック・オーディオをレンダーからリアルタイムに変更し、再度レンダー・モードへ戻すことでオンラインになります。

リアルタイム・エラスティック・オーディオ・トラックの波形表示 (Item #98343)

エラスティック・オーディオのリアルタイム・プロセッシングを使用している場合、使用しているアルゴリズムに関わらず、Pro Tools には Varispeed の波形が表示されます。これは、全てのエラスティック・オーディオ・プロセッシングがリアルタイムに処理され、波形自体はどのようにサウンドするか予測であることに起因します。レンダー・モードへ切り替えることで、使用しているアルゴリズムによってレンダーされた場合の実際のオーディオの様相を視認できます。

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される (Item #98841)

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される場合があります。ワークスペースを使用して、ファイルを編集ウィンドウまたはステレオ・トラック上に直接ドラッグしてください。

セッションのテンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用「デフォルト・インプット・ゲイン」(Item #96725)

[初期設定] > [プロセッシング] ページにある [エラスティック・オーディオ] > [デフォルトインプットゲイン] は、セッション・テンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用の設定です。ワークスペース内の [コンテキスト視聴] がオン、またはプロセッシング初期設定ページ内の [デスクトップからのドラッグ&ドロップはセッション・テンポに合わせる] がオンに設定されていない限り、この初期設定オプションは機能しません。

エラスティック・オーディオを含んだリージョン・グループは、そのリージョン・グループ自体にエラスティック機能が適用されていない場合、エラスティックとして認識されない (Item #92770, #97107)

リージョン・グループ内にエラスティック・オーディオが含まれているが、リージョン・グループ自体の最外層においてエラスティック・オーディオ操作がなされていない場合は、そのリージョン・グループはエラスティック・オーディオとして認識されません。新規トラック作成に用いられる場合、トラックは自動的に [エラスティック・オーディオ 有効] には設定されず、リージョン・グループ内のエラスティック・オーディオは、そのセッション用のデフォルト・エラスティック・オーディオ・プラグインを使用してレンダーされます。これは、リージョン・グループにワーブ・マーカーを追加して、強制的にエラスティック・リージョンと認識させることで回避できます。または、[エラスティック・オーディオ 有効] に設定したトラックを最初に作成した後に、リージョン・グループを追加します。

[ソース・メディアから統合] オプションを使用してエラスティック・オーディオをインポートできない (Item #96404)

[ソース・メディアからコピー] を使用して、エラスティック・オーディオ・トラックへインポートしてください。

AudioSuite とリージョン・グループ (Item #64410)

オーディオ・ファイルとリージョン・グループでは、AudioSuite プラグインの処理がわずかに異なります。オーディオに関しては、“リージョンリスト参照”を選択して、“プレイリストに使用”を選択したりすると、AudioSuites プロセスがセッション内に現れるオーディオ・ファイルの全コピーへ適用されます。しかし、リージョン・グループを選択中に、ターゲットが AudioSuite プラグイン・ウィンドウ内の“リージョンリスト参照”にセットされていると、Pro Tools はリージョン・グループをプロセス可能なオーディオと認識せず、“オーディオが選択されていません”というエラーが現れます。これは、実際にトラックの中で使用されるまで、リージョン・グループが“オーディオ”ユニットとして認識されないために生じます。

セッション内にあるすべてのリージョン・グループのコピーに、瞬時に AudioSuite を適用するには、下記の通りにします。

- 1 プロセスするリージョン・グループを選択します。
- 2 リージョン・メニューから [すべてのグループ解除] を選択します。グループ内の全要素が選択されたままの状態になります。
- 3 AudioSuite プロセスを実行します。
- 4 リージョン・メニューから [再グループ] を選択します。
- 5 プロンプトが表示されたら、セッション内のリージョン・グループの全コピーへ AudioSuite を適用する場合は“修正”を選択し、選択されたリージョン・グループのみに適用する場合は“コピー”を選択します。

インストゥルメント・トラックや Aux 入力に、ソフトウェア・インストゥルメントをインサートしても音が出ない (Item #65797)

ソフトウェア・インストゥルメントによっては、音も鳴らず、再生もしないものがあります。これが起こった場合は、ハードウェア・インプットをインストゥルメント・トラックまたは Aux インプットに、MIDI アウトプットをインストゥルメント・トラックへ手動でアサインします。

Pro Tools は QuickTime ムービーのサラウンド・オーディオには対応していません (Item #67350, 67351, 67353)

QuickTime 7 では、QuickTime ムービーを使用する際のサラウンド・オーディオの機能が追加されました。現在の所、Pro Tools は 3 チャンネル以上のオーディオを持つ QuickTime ムービーには対応していません。Pro Tools は、マルチチャンネルの QuickTime ムービーをインポートする事も、マルチチャンネルの QuickTime ムービーとしてバウンスすることもできません。また同様に、マルチチャンネルの QuickTime ムービーはワークスペース・ブラウザでは認識されません。

CD-ROM/DVD ディスク からデータをコピーする (Item #54913)

セッション・データを CD-ROM/DVD ディスク からローカル・ドライブにコピーした後は、必ずそのデータの所有権とアクセス権を変更する必要があります。[ファイル]>[情報を見る] から、所有権とアクセス権の部分を開き、権限を「読み出しのみ」から「読み/書き」に変更してください。

パフォーマンスの最適化 (Item #63888)

Pro Tools のパフォーマンスを最適化するには、可能な場合はハードディスクをスリープする」のチェックを外します (システム環境設定の省エネルギー設定内)。

復旧されたセッションを開いた後のプレイバックエンジンへのアクセスについて (Item#54319)

[セッションファイルの自動バックアップ] を使い保存されたファイルを開くときは、一度新しく名前をつけ、再度保存してください。そのままの場合プレイバックエンジンにアクセスできないことがあります。

Pro Tools 起動時の -5000 (Unknown Error) エラー (Item #36130)

複数のパーティションのあるシステムで、それぞれのパーティションに違うバージョンの PACE Interlok がインストールされていると Pro Tools 起動時に“Unknown -5000 error”が発生します。全てのパーティションに同じ PACE のコンポーネントをインストールする事により、この問題は回避出来ます。

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと見つからないファイルがある (Item #37572)

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと、いくつかのファイルが見つからないと表示されます。この場合、再リンクウィンドウにて「ファイル名」と「長さ」によって再リンクできます。「フォーマットの一致」ではリンクが見つからない場合があります。

MIDI

リアルタイム MIDI プロパティが有効に設定されていて、さらにダイアトニック・トランスポーズを使用するように設定された MIDIトラックにセッション・データをインポートした場合、トランスポーズはセッション内の最初のキーを元に行われます (Item #81666)

複数のキー (調)と、リアルタイム・プロパティのキー・トランスポーズが有効に設定された MIDI またはインストゥルメント・トラックを含むセッションから、セッション・データをインポートすると、トランスポーズはセッション内の最初のキーをベースに行われます。これは、ダイアトニック・トランスポーズが各キーに対して正しくなる場所で、リアルタイム・プロパティをオン/オフ切り替えると補正できます。

Pro Tools 7.x セッションよりエクスポートされた MIDI Type 1 ファイルが、Pro Tools 6.x セッションに正しくインポートされない問題点 (Item #72181)

Pro Tools 7.x セッションからエクスポートされた MIDI Type 1(SMF 1) ファイルは、Pro Tools 6.x セッションに正しくインポートされません。MIDIトラックは正しく作成されますが、MIDI リージョンがプレイリスト内の正しい位置に作成されない問題が発生します。プレイリスト内に反映されない代わりに、リージョンリストにのみインサートされます。MIDI リージョンをプレイリストにドラッグする事により、この問題を回避できます。

プラグイン

X-Form AudioSuite の視聴パフォーマンス (Item #96728)

Polyphonic モードで Formant スイッチが入った状態で視聴をすると、フォルマント・プロセッシングは、視聴ループが 2 周目になるまで作用しません。さらに、Polyphonic モードで視聴中にフォルマント修正が行われると、スロー・プロセッシングによるオーディオ・ドロップアウトが発生します。

SurroundScope プラグインにグラフィカル・アーティファクトが表示される。(Item #73428)

Pro Tools 7.4 とともにインストールされるバージョンの SurroundScope プラグインのメイン・ディスプレイには、グラフィカル・アーティファクトが表示されます。

この問題を修正したアップデート・バージョンが、近い将来に予定されています。Surround Scope をアップデートするための、新しい無償 DigiRack Signal Tools プラグインは、Digidesign のウェブ・サイト (www.digidesign.com) からダウンロードできます。

7.x 対応プラグイン及び追加オプション・ソフトウェアのデモ・モード

Digidesign 7.x プラグイン及び Pro Tools 7.x 追加オプション・ソフトウェアには、期間限定のデモ版は含まれません。その代わりに、これらプラグイン及び追加オプションのデモ版を使用するには、iLok USB キー及びデモの iLok ライセンスが必要です。デモ・ライセンスの取得を希望される際は、Digidesign ウェブサイト (www.digidesign.com) の各製品ページにて Demo ボタンをクリックしてください。

ReWire を使用する際のシステムリソースの保護 (Item #43521)

Pro Tools のセッションで ReWire (特にシングル・プロセッサのコンピュータにおいては) を使用する際、RTAS の負荷を増加させる事によって (RTAS plug-ins を増やす事により)、CPU に負荷を与え、パフォーマンス・エラーを引き起こす恐れがあります。最大のパフォーマンスを実現させるには、プラグインのトラックをオーディオ録音し、使用されているプラグインを無効にする事により、CPU リソースを保護してください。

Mod Delay I プラグイン設定のインポート (Item #27486)

Mod Delay I 設定を Mod Delay II へインポートした後は、Mod Delay II 設定ポップアップで表示させる前に、設定ファイルを保存しておく必要があります。以前のバージョンの Pro Tools と Mod Delay プラグインで作成されたセッションとの下位互換を保つためには、Pro Tools 6.0 互換バージョンの Mod Delay I プラグインをご使用ください。これは Pro Tools インストールディスク上の Additional Files/Unsupported Software ” フォルダに収められています。

ビデオ

アドミン権限の無いユーザーが、QuickTime ムービーを含むセッションを開いた時に、そのセッションを再生できない問題 (Item #47053)

もしアドミン権限がなく、Quick Time への承認が無いユーザーが、QuickTime ムービー付きのセッションを開いた場合は、「Quick Time ムービー・ファイルが無く再リンクしますか」というダイアログが表示されます。再リンクウィンドウでは、そのムービー・ファイルを見つけ再リンクしたかのように見えますが、依然再生することはできません。再生できるようにするには、Quick Time ファイルへの承認をすることになります。

Pro Tools の起動中に DV 機器を接続、あるいは取り外した際に生じる DAE エラー (Item #35034)

Pro Tools の起動時に DV 機器を接続すると、-6090、-6093、あるいは -6097 DAE エラーの発生、または Pro Tools が予期せぬ理由で終了する可能性があります。これを回避するためには、すべてのDV機器とその他のFireWireデバイスをPro Toolsの起動前に接続する必要があります。

Avid との相互運用性 /DigiTranslator

サンプルレート変換を使用して、Pro Tools から 59.94 ドロップフレーム AAF をインポートすると、Avid Media Composer 上でメディアがオフライン表示される (Item #81960)

Pro Tools から、サンプルレート変換とともに 59.94 ドロップ・フレームで AAF をエクスポートし、Avid MediaFiles フォルダ (Avid MediaFiles/MXF/1) に直接 MXF メディアを書き出すと、メディアは共有ストレージ環境内でオフラインになる可能性があります。メディアをオンラインにするには、Avid システム上で、メディア・ディレクトリをマニュアルでリフレッシュします。

MXF メディアを含む 59.94 ノンドロップ・フレーム AAF をインポートしたときに、Avid 内でメディアがオフラインになる (Item #81961)

Pro Tools から 59.94 ノンドロップ・フレームで AAF をエクスポートし、Avid MediaFiles フォルダ (Avid MediaFiles/MXF/1) に直接 MXF メディアを書き出すと、メディアは共有ストレージ環境内でオフラインになる可能性があります。メディアをオンラインにするには、Avid システム上で、メディア・ディレクトリをマニュアルでリフレッシュします。

ローカリゼーション一般

英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスをインポートすると、文字化けや再リンク不能を引き起こす (Items #95851, #95857, #96279)

Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 システム (またはそれ以前) から、英語以外の文字を持つファイルまたはリージョンを含んだ AAF/OMF シーケンスをエクスポートすると、Avid Media Composer、XP ベースの Pro Tools システムまたは Pro Tools 7.4 システム (Windows または Mac) へ正しくインポートできない場合があります。逆に、全ての Pro Tools 7.4 (またはそれ以降) システムからエクスポートされた、英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスは、Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 (またはそれ以前) システムへ、正しくインポートできない可能性があります。ファイルをリンクするためには、[手動で検索、再リンク] を選択して、[ファイル ID で見つける] 以外のオプションを全て外します。リージョン名は文字化けする場合があります。

DV Toolkit 2 と Music Production Toolkit

Music Production Toolkit 及び DV Toolkit 2 は、Intel ベース iMac, MacBook 及び MacBook Pro をサポートしています (Item #80156)

現在出荷されている Intel ベース iMac, MacBook 及び MacBook Pro は、88.2 kHz 及び 96 kHz における、Toolkit の最大トラック数 48 トラックをサポートしていません。

▲ これは、88.2 kHz 及び 96kHz での、Toolkit の最大同時録音 / プレイバック機能にのみ当てはまります。その他の全ての Toolkit 機能は、Intel-Mac プラットフォーム上で完全に機能します。

オリジナル・タイムコードのロケーションを維持することができない (DV Toolkit 2 のみ) (Item #37628)

DV Toolkit 2 を使用している場合で、あるリージョンへ現在のタイムコードを再定義すると、Pro Tools に “セッションの境界の外にリージョンまたはプレイリストが存在するため、入力されたタイムコードでは元のタイムコードロケーションを維持できません。相対的な位置でタイムコードを保つには、OK をクリックしてください。ここで OK をクリックすれば、タイムコードは正しくマップされます。

スクラブ・トリム・ツールが、ループされたリージョンをトリムする際にスクラブしない問題点 (DV Toolkit 2 のみ) (Item #72650)

DV Toolkit 2 の使用時に、スクラブ・トリム・ツールを使用して、ループ・トリマーでループされたリージョンをトリムしても、オーディオがスクラブされません。

003

インストール後の Pro Tools 初回起動時に、003 が認識されない (Item #92860)

003 を接続して Pro Tools をインストールした後の初回起動時に、ハードウェアが認識されない場合があります。この場合、Pro Tools を終了して 003 の電源を切り、再度電源を入れたうえで Pro Tools を再起動します。これでハードウェアは認識されます。

Digi 002 と Digi 002 Rack

OS X 上で 002 を使用する際の、MIDI 及びオーディオ・スループット (コンピュータのデータ処理量) の遅延増加 (Item #82145)

002/002 Rack を接続した OS X 上で Pro Tools 7.4 を使用した場合、各サンプル・バッファサイズに対する MIDI/ オーディオ・スループット・レーテンシー量が、以前のバージョンの Pro Tools より増加しています。この余分なレーテンシーは、プレイバック・エンジン内のサンプル・バッファサイズを減らすことにより回避できます。以前の Pro Tools のバッファサイズを X として、その半分のバッファサイズ (2分の X) で、同一の RTAS 及びディスク・パフォーマンスが得られます。そのため、RTAS またはディスク・パフォーマンスに影響することなく、バッファサイズを 1 づつ減らすことが可能です。

FW800 に録音をする際の FireWire リセットエラー (-6090) 及びその他のエラー (Item #73553)

pci-e G5 にて、Digi 002 が背後の FW400 ポートに接続されている状態で、FW800 に録音を行うと、録音中に FireWire リセットエラー (-6090) が発生し、その後に -6093 もしくは 6096 エラーが連続して発生する事があります。このエラーは、セッションを保存し、Pro Tools を終了する事により回避できます。その後に FireWire ドライブを取り出し、Digi 002 の電源を切った後に接続を外し、G5 の前面の FireWire ポートに Digi 002 を再接続し、Digi 002 の電源を入れます。この状態でコンピュータを再起動すると、問題無く録音を行う事ができます。

低バッファサイズでの RTAS パフォーマンス (Item #68171)

極めて低いバッファサイズの下では、RTAS プロセッシングに対して複数のプロセッサを割り当てていると、パフォーマンスを低減させる可能性のある RTAS プラグインもあります。その場合、[プレイバックエンジン] ダイアログで、RTAS プロセッサの数を 1 つに設定します。

CPU 使用限度 95% 以上での DAE エラー (Items #36196)

Digi 002 及び Digi 002 Rack システムでは、[CPU 使用限度] を 95% 以上に設定すると、-6086、-6093、または -6097 DAE エラーが起こることがあります。Pro Tools がアイドル中に -6097 のエラーが発生する場合は、作業中のセッション内でアクティブなプラグインの数を減らしてください。(この問題は、デュアル・プロセッサの Macintosh にて、プレイバックエンジンダイアログの RTAS プロセッサが 1 に設定されている際のみ発生します。)

Digi 002/002r システムで Pro Tools を使用し、ルートユーザーでログインし、システム上に何らかの設定変更した場合、次の ProTools 起動時に問題が発生する可能性がある。(Item #35315)

ルートユーザーとしてログインしながら、システム上の設定変更(あるいは terminal で sudo コマンドを使用)を行った場合、次の Pro Tools 起動時に問題が発生する可能性があります。これが起きた場合には、Digi 002/002 Rack 及びコンピューターの電源を一旦完全に切り、その後再度 Digi 002/002 Rack、コンピューターの順に起動し、最終的に Pro Tools アプリケーションを起動しなおします。

Digi 002 を Mac OS 9 と Mac OS X とで切り替える際のファームウェア・アップデートは不要

Digi 002 を Mac OS X 上で使用した後、Mac OS 9 上でも使用する場合は、新しいバージョンの Digi 002 ファームウェアをダウンロードするようアラートが表示されます。これは必ずしも必要ではありません。ファームウェアをダウンロードしてくださいといった内容のダイアログが表示されましたら、後にをクリックして、ファームウェアのアップデートを行わないでください。もし Mac OS 9 ファームウェアをダウンロードしてしまうと(この必要はございませんが)、再度 Mac OS X で Digi 002 を使用する際に、Mac OS X 対応のファームウェアをダウンロードするように即されます。このダイアログは、Mac OS X と Mac OS 9 の間を行き来すると、Pro Tools の起動時に毎回確認されるようになります。これは無視してください。

Digi 002 で使用する Pro Tools LE は入力された MIDI タイムコードヘシク不可 (Item #36448)

Digi 002 で動作する Pro Tools LE では、AMS の起動中に Pro Tools を起動すると、Pro Tools が MIDI タイムコード (MTC) とシクできなくなります。必ず AMS を終了してから Pro Tools を起動するようにしてください。

-6097 エラーまたは複雑なセッションでの Pro Tools LE のフリーズ (Item #37973)

コンピューターの CPU の許容量を越える多数のプラグインでセッションを作成する、または開く際、Pro Tools LE は Digi 002 または Digi 002 Rack とのコミュニケーションが取れなくなり -6097 エラーが表示され、フリーズする可能性があります。このような状況では、一度 Digi 002 または Digi 002 Rack の電源を切り、Pro Tools を終了する必要があります。同じシステム上でセッションをプレイバックする前に、プラグインの数を減らしてください。

Mbox 2

Mbox 2 は Ozone ドライバと非互換 (Item #73599)

同一のシステムにて、Mac OS X 上に Ozone ドライバがインストールされていると、Mbox 2 は認識されません。Mbox 2 を使用する際は、Ozone ドライバがインストールされていない事を必ずご確認ください。

Mbox 2 と M-Audio デバイス間で発生するデバイス・ドライバのコンフリクト (Item #72780)

Pro Tools LE と Pro Tools M-Powered が混在する Mac OS X 上で Pro Tools LE を起動した際に、M-Powered のデバイスの電源が入っていると Pro Tools LE が起動に失敗することがあります。この問題が発生した場合は、M-Powered のデバイスの電源を切り、接続を外した状態で Pro Tools LE を起動してください。

Pro Tools が Mbox 2 を認識しない

Apple PowerBook G4 の互換性問題を解消する最新ファームウェアにアップデートされていない Mbox 2 は、Pro Tools 7.3(またはそれ以降の) ソフトウェアに認識されない可能性があります。この現象が発生した場合、Pro Tools 7.4 インストーラ・ディスクの "Unsupported Software" フォルダにある "beta Mbox 2" ドライバをインストールしてください。

AC-3 Mode 設定切り替え時に Mbox 2 から発生するオーディオ・ポップ (Item #63293)

Mbox 2 Control Panel 内において、AC-3 オプションにチェックを入れるまたは外すと、アナログ・アウトプットからオーディオ・ポップが発生する。

Mbox 2 は 49 KHz 以上のサンプルレートには非対応 (Item #63141)

Mbox 2 は 49 KHz 以上のサンプルレートをサポートしません。これは USB 1.1 の帯域制限と USB コントローラに起因します。これは、外部 S/PDIF クロックに同期して、サンプルレートが 2% あるいは通常の 48 KHz 以上に引きあがった時にのみ起こる問題です。

Mbox

Mbox 及び Pro Tools LE 使用時の推奨ハードウェア・バッファサイズ (Item #38657)

Mbox 及び Pro Tools LE 使用時の推奨ハードウェア・バッファサイズは 512 samples です。

Pro Tools LE の起動中に Mbox を接続すると認識されない事がある (Item #43449)

Pro Tools LE 起動時に Mbox の USB コネクタを接続すると、インターフェースが認識されない事があります。これを避ける為に、Pro Tools LE の起動前に Mbox を接続して下さい。

Mac OS X Firmware Updater がフリーズする (Item #35047)

Mbox と USB ケーブルを再接続する際、Mac OS X Firmware Updater がフリーズする場合があります。このような時はコンピュータを再起動してから、再びアップデートを実行してください。

[ハードウェア設定] ダイアログの [ペリフェラル] に「インターフェースなし」と表示される (Item #37383)

Mbox を使用する際、ハードウェア設定内のペリフェラルのセクションで、インターフェースがありませんと間違ったダイアログが表示されることがあります。これは問題を提示しているのではありませんので、無視してください。

Apple オーディオ MIDI 設定 (AMS)

Pro Tools の再生中に AMS の設定を変更しない。

Pro Tools LE でセッションを再生中に AMS の設定変更を行うと、問題を生じる可能性があります。AMS を編集する必要がある場合は、まず Pro Tools を停止してください。AMS の設定を変える場合は、最初に Pro Tools のプレイバックを停止してください。Pro Tools 起動後に設定 > オーディオ MIDI 設定を編集 を選択し、AMS を起動します。

エラー・メッセージ

再生中の -6031 エラー (Item #32637)

複雑な MIDI やオートメーション・データを持つセッションを再生中に -6031 というエラーが生じたら、再生を一旦止め、セッションを保存し閉じてください。そして Pro Tools を終了してから再起動し、そのセッションを再び開いて作業してください。

-6093 エラー : Digi 002 / 002 Rack、Canopus、及び Firewire ドライブを併用した際に表示されるエラー (Item#53011)

上記システムを G5 Macintosh 上にて使用時、Canopus ADVC-100 DV を使用した際に起こる -6093 エラーが発生した場合には、Digi 002 / 002 Rack をひとつの Firewire ポートに、もう片方の Firewire ポートにドライブ及び Canopus のコンバータを接続し、Firewire 接続を分配します。

-6093 エラー : オペレーティング・システムのインターラプトが長すぎます (Operating System Held Off Interrupts for Too Long; Item #46779)

-6093 エラーが頻繁に生じる場合は、ハードウェア・バッファサイズを増やしてください。

FireWire Drive 上に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合の DAE Error -9073 (Item #42611)

FireWire ドライブへ録音中、2 GB のファイル・リミットに到達した時、本来表示されるべき “ Recording has been terminated because a disk is full ” というディスク上に空きスペースがなくなったため録音を継続できない旨のアラートの代わりに DAE 9073 が表示されます。このエラーは悪いものではなく、データの損失を示すわけでもハードドライブに問題があるわけでもありません。

FireWire Drive に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合、これ等が何れも該当しない DAE Error -9073

-9073 エラーが生じた場合は、Digidesign の Web サイト (www.digidesign.com) のアンサーベースを参考に、可能性のある原因の追求とその解決を計ってください。

DAE Error -9128

高いサンプルレート (96 kHz 以上) と複雑なオートメーションを伴う、または多数の RTAS プラグインが使用されているセッションでは、ハードウェア・バッファサイズを 512 以上に設定することで、プレイバック中の -9128 エラーを回避できる場合があります。

- または -

長時間のレコーディングで -9128 が生じた場合、[設定] [プレイバックエンジン] で CPU 使用限度を高く設定してください。

DAE Error -9131 (Item #92747, #20843)

GUID でパーティションされたドライブでは、OS X での起動時にサード・パーティション以上へレコーディングできません。GUID の代わりに Apple Partition Map を使用して、オーディオ・ドライブをパーティションしてください。

- または -

Pro Tools では、UNIX File System (UFS) フォーマット・ドライブへの録音 / 再生はできません。

DAE Error -9132

ハードウェア・バッファサイズ設定を最高値に設定しているにも関わらず、[ディスクヘバウンズ] 中に -9132 エラーが生じたら、セッション上に録音用のトラックを作成し、目的のトラックから内部バスを適切にアサインして、ディスクに録音してみてください。

DAE Error -9735

Pro Tools がタイムラインの終点に到達した際、またはその論理的限界に達した場合、Pro Tools を最大タイム・リミットより長く継続して再生していると、このエラーが生じます。Pro Tools の最大タイムリミットは、セッションのサンプルレートに依存します。詳しくは、「*Pro Tools* リファレンスガイド」をお読みください。

Pro Tools ガイドの修正

新機能ガイド

PN 9320-56790-01 REV A 08/07 及び PN 9320-56791-01 REV A 08/07

以下は、*Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド* 及び *Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド* における訂正事項です。

エラスティック・オーディオ

Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド 及び *Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド* の 5 ページ第 3 パラグラフに、「エラスティック・オーディオは、ループの操作、演奏の修正、リミキシング、サウンド・デザインや特殊効果、映画音楽やポストプロダクションなど様々なワークフローで役立ちます」とありますが、以下の通りに訂正します。

訂正:

「エラスティック・オーディオは、ループを使った作業、演奏の修正、リミキシング、サウンド・デザインや特殊効果及び映画音楽の様々なワークフローで役立ちます」

映画音楽及びポストプロダクション

*Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド*及び*Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド*の 6 ページに記載されている、映画音楽とポストプロダクションに関するセクションに「エラスティック・オーディオを使ってプルアップまたはプルダウン率を調整できる」と記載されていますが、これは誤りです。このセクションを以下の通り訂正します。

訂正:

セクションのタイトル 「映画音楽」

本文 「映画のシーンに対するスコアを作成する場合、エラスティック・オーディオを使って、音楽を必要な長さに合わせることができます。テンポ変更を使って、アツチエラダントやリタルダントの効果を得ることもできます」



複数のキューを持つセッションでテンポ変更を使用すると、それによりタイムライン上にある別のキューのタイムコード位置に影響する可能性がありますので、ご注意ください。



エラスティック・オーディオはプルアップ及びプルダウン・ワークフローには推奨されません。セッション設定ウィンドウのリアルタイム・プルアップまたはプルダウンを使用するか、*DigiRack Time Shift* または *X-Form Audio Suite* プラグインに含まれるプラグイン設定を使用します。

Varispeed

*Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド*及び*Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド*の 20 ページの Varispeed プラグインに関して、「ポストプロダクション・ワークフローに役立つ」と記載されていますが、これは誤りです。以下の通り訂正します。

訂正:

「テープのような速度変更の効果を得るには、Varispeed プラグインを使用して時間と音程の変更をリンクします。Varispeed プラグインには、プラグイン特定のコントロールはありません。」